

今月の

用語

## 隣に伝えたい 新たな言葉と概念

### 【MARTA】

- 英 Multi-Acting Receptor Targeted Antipsychotic
- 和 多受容体作用抗精神病薬
- 略 MARTA
- 義 多元受容体標的化抗精神病薬

#### 【用語解説】

MARTA (Multi-Acting Receptor Targeted Antipsychotic, 多受容体作用抗精神病薬) は、抗精神病薬の第二世代 (非定型) 抗精神病薬 (second generation antipsychotics : SGAs) の中の1タイプの総称である。作用の違いから「SDA (Serotonin-Dopamine antagonist)」、「MARTA」、「DSS (Dopamine System Stabilizer)」等のタイプに分けられる。

MARTA の薬理作用は、ドパミン  $D_2$  受容体以外のドパミン受容体やセロトニン受容体 ( $5-HT_2$ ) に加え、ヒスタミン  $H_1$ 、アドレナリン  $\alpha_1$ 、ムスカリン受容体などの多様な受容体に同程度の遮断作用を示し、これらの作用が相互的に関連して抗精神病作用を表すと考えられている。主な副作用は、各神経伝達物質の受容体への親和性に特徴がある。抗コリン、抗ヒスタミンらによる副作用である体重増加や血糖の上昇に注意が必要で、糖尿病や糖尿病の既往歴のある患者は禁忌又は慎重投与であり注意が必要である。

抗精神病薬は、「定型抗精神病薬 (従来薬)」と「非定型抗精神病薬 (新規抗精神病薬)」の二つに大きく分類され、第一世代 (定型) 抗精神病薬 (first generation antipsychotics : FGAs) 及び第二世代 (非定型) 抗精神病薬 (SGAs) とも言われる。FGAs は過剰になりすぎたドパミンの働きを抑えることで、統合失調症の症状の中でも、陽性症状 (幻覚、妄想、思考障害、興奮、不眠等) に特異的な抑制効果を示す。種々の化学構造を持つ薬剤が含まれるが共通して中枢ドパミン受容体の一つである  $D_2$  受容体遮断作用を有する。それに対し SGAs はドパミン以外のいくつかの神経伝達物質に対して選択的に働き、これにより幻覚、妄想だけでなく、陰性症状 (感情の平板化、会話貧困、欲動低下等) や、認知機能障害へも効果があるとされている。SGAs の副作用の特徴は、錐体外路症状、プロラクチンの上昇などが FGAs に比べ少ない。

#### 【参考文献】

- 1) 日本神経精神薬理学会. 統合失調症薬物治療ガイドライン (2016年7月30日改訂)
- 2) 吉尾隆 [ほか] 編. 薬物治療学. 改訂4版, 東京; 南山堂, 2015.
- 3) 安原一監修. 新薬理学. 改訂第6版, 東京; 日本医事新報社, 2015.
- 4) 高久史磨・矢崎義雄監修. 治療薬マニュアル. 東京; 医学書院: 2017.

(国立病院機構東京医療センター 薬剤部長 谷地 豊)

本誌242pに記載